

第2回鳥取県教育審議会学校等教育分科会（要旨）

- 1 日 時 令和2年度9月4日 午後1時30分から3時まで
- 2 会 場 とりぎん文化会館第3会議室
- 3 出席者 小椋分科会会長、尾崎委員、高尾委員、中村委員、藤田委員、松岡委員、松本委員、三木委員、山根委員、田中委員、岡空委員、西川委員（定足数充足）
高等学校課 酒井課長、福本室長、徳永指導主事、石原指導主事、尾崎

4 要 旨（○：委員発言／●：事務局発言）

（1）現行の「今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針」について

（2）県立高等学校における現状の教育課題について

- 現行の基本方針とあわせて今の高校の施策について説明。
- 校長や若手教員からの聞き取りやアンケート等で整理した各普通科高校の現状と課題について説明。
- 中高の連携が不十分。子どもたちの能力に応じた高校の選び方や、高校での教育の仕方にスムーズな連続性が必要。（中村委員）
- コミュニケーション能力を15歳以上の高校生からつけることは出来ない。小中学校でしっかりやっておかないと身につかない。
- 高等学校は、能力や入学資格で振り分けられるのではなく、中等教育の後期のものとして準義務化されたものだという認識が必要。
- 新型コロナウイルスの影響を、この審議会ですべて捉えるのか議題にすべき。
- 地方自治体としての、学校の休校等をどう考えるのか。また、バッシングや差別の問題を学校教育としてどう考えていくのか。
- 学力が低かったり、社会参画が苦手な子どもたち、社会性に問題がある子供たちのため、高等学校に専攻科を復活させ、自立と社会参画の可能性を広げてはどうか。
- 中学校での教育内容や社会性を学び直したり、興味関心に基づいて意欲を引き出しながら再学習するような施策が高校に必要なではないか。
- 小中学校でも高校でも先生はセンターテイナーでなければならない。
- やる気や面白みをどうやって伝え、それから子どもたちが自分で人生を選んでいくような大きなフローをフィロソフィカルな面も含めて議論すべき。
- 幼少期からの英語教育が鳥取県で純粹培養できて、高校に入学するとスタンフォード大学の先生と対等に会話できるというくらいになると誇らしく思える。
- 出来る生徒ばかりに光が当たるような感じがするが、普通の子どもたちも社会に出て貢献できるような育成していかなければならない。
- 様々な人、様々な職業があって社会は成り立っているのだから、それらに光を当てて個々に対応できるような高校づくりを希望する。
- 我々日本人として日本の歴史、独特の文化を持って、自分の中で物事を考え、それを表現し伝えられる人間として成長することが必要であり、英語が重要とするのは表面的なことである。
- どれだけ自分の言葉を獲得しているか。言葉イコール思考力だと思う。
- 言われたことを鵜呑みにせず、自分の頭で論理的に考えることも育てることが大事。
- 令和8年度以降を前提とすると、コミュニケーションを英語でやる前提は重要でなくなってくる。ほとんどタイムラグなく、英語でもロシア語でも翻訳される。

(2) 普通科高校の在り方について

- 県立高校 10 校に全日制普通学科があり、グローバル教育や地域連携など各校毎の取組がある。
国の普通科改革の議論の中では、学際融合学科や地域探究学科（いずれも仮称）等を普通科に盛り込む提案がなされている。
- 例えば地域研究で 1 人の教員が 40 人の生徒を連れていくことは無理。標準の 40 人を少し減らして丁寧な教育をしてはどうか。
- 学級編成基準を独自に考えていく必要があるのではないかと思う。
- この時期だからこそ、学級編成基準を地方の自治体から積極的に訴えてはどうか。
- 思い切って学級編成基準を緩和し、仮に教員を増やさなくとも、少子化が進んでいるので今の教員水準を維持すれば、ずいぶんいろんなことができる。
- より中学生が高校を選びやすく、学校の内容で選べるという方向にシフトすることが望ましい。
- 何をしたかということがないまま 3 年間で終わり、大学で何を勉強したいのかははっきりわからないまま大学進学を目指すことは、公私問わず地方の普通科高校では大きな問題となっている。
- 特色ある学校を目指すための目標として各学校が「大学進学」を設定するのはあまりにアバウトでわかりにくい。
- 外国では問題提起しながら物事を考えるトレーニングを繰り返し、何をやればいいのか自ら見つけていくが、日本の場合、受験勉強しかり答えが全部決まっている。
- 何かを作り上げていくための、ユニークなところをいかに伸ばすかという教育が日本ではほとんど出来ていない。
- 地域から高等学校がなくなると地域は衰退する。少人数でもできる形を考えてほしい。
- 鳥取県は自然に恵まれ、災害も少ない安心安全の県。積極的に県外の学生を募集し、寮の充実も図ることが魅力につながる。
- 今起こっているコロナ等様々なことをベースにしながら令和 8 年度以降に向かってイメージして議論することが必要。

以 上